

「トンム (동무)」に関する社会言語学的考察

—中国朝鮮族の文学作品における言語生活を中心に—

孫 蓮花

広島大学大学院国際協力研究科
教育文化専攻 博士課程後期
〒739-8529 東広島市鏡山 1-5-1

1. はじめに

「トンム (동무)」は本来「友達、友 (친구)」という意味で、昔から朝鮮半島の人達に親しまれてきた言葉であったが、南北分断後、韓国と朝鮮民主主義人民共和国 (以下北朝鮮と略す) では、「トンム」をめぐってそれぞれ異なる言語現象が現われた。まず、北朝鮮では従来「友達」という意味で使われてきた「トンム」が「同じ目標の実現を目指す互いに平等な仲間」という意味をも持つようになり、呼称として用いられるようになった。それに対し、韓国では「トンム」という呼称を、北朝鮮の社会主義理念の象徴として忌避し、一般の会話などではほとんど使われなくなった。このような現象は「国語研究院掲示板」(1999年10月30日付)⁽¹⁾において明らかになっている。

今回中国朝鮮族社会の呼称に関する調査を行う中で、中国朝鮮族⁽²⁾社会でも「トンム」という呼称が使われ、北朝鮮の言語の影響が強く、韓国とは異なる用法になっていることが明らかになった。一方、社会主義国としての道を歩み始めた中国においても、comrade の訳語としての「同志」⁽³⁾という呼称が新しい社会にふさわしい呼称として受け入れられ、社会の各階層で急速にその使用が広がった。これらも中国の影響を強く受けている朝鮮族の言語生活⁽⁴⁾と朝鮮族の「トンム」という呼称の活用⁽⁵⁾に一定の影響を及ぼしたと考えられる。

本稿では、中国朝鮮族地域を対象に文学作品に見られる「トンム」という呼称の用例を取り上げ、

中国朝鮮族の言語生活における「トンム」呼称の史的変遷、及び「トンム」呼称使用と社会的な人間関係との関連を考察することによって、「トンム」呼称の一つの側面を明らかにすることを試みた。本稿で呼称としての「トンム」の使用とその史的変遷に焦点を当てることは、一つの民族の言語生活⁽⁶⁾が異なる社会背景において受ける影響を把握する上で重要な意味を持つだけでなく、朝鮮語圏社会における呼称体系に関する研究の一環としても重要であると思われる。

これまで「トンム」については、王翰碩 (1990) が「北韓の親族用語」の中で「トンム」が夫婦の間での呼称として使われていることに触れており、김상원 (1994) が中国朝鮮語⁽⁵⁾と韓国語の呼称比較研究の中で、「トンム」の組み合わせに関して言及している程度にとどまっており、未だに「トンム」を扱った本格的な研究は見当たらない。また「トンム」の類義語として中国語の「同志」という呼称があるが、その使用は、早くから中国国内外の言語学者たちの注目を受け、使用実態などについて活発な研究が行われてきた。その中でも、「同志」が言語環境の変化即ち話し手と相手の権力差や連帯意識の有無などによって様々な場面で使われることを指摘した Scotton and Zhu (1983) の研究成果は特に注目される。しかし、中国語の「同志」と同じく社会主義平等理念を表す「トンム」は、北朝鮮や中国で「一般に他人を呼ぶときに使う言葉」として幅広く頻繁に使われ、日本の辞書でも「-さん」「-君」と訳され、尊称として取

り扱われているにもかかわらず、その用法や使用実態などに関する研究は皆無に近い。

本稿では、主に1930年代から2002年現在までの文学作品⁶⁾を取り上げ、それらを中国の政治情勢の変化により4つに時期区分し、各時期の文学作品の中に現われた「トンム」の用例を集め、各時期における「トンム」の使用と変化を考察していきたいと思う。特に「トンム」の年代的变化を考察するためには、過去の言語調査が必要であるが、生の会話資料を得ることは不可能なので、当時の日常生活を反映した文学作品を通して考察を進めることにした。調査に際して、用例採用の選定基準は次の2つの条件に基づいた。

①中国朝鮮族作家によって書かれた小説に限定する。

②中国朝鮮族の生活を題材にした作品に限定する。

2. 「トンム」の語義及び呼称化について

2-1. 語義

「トンム」の語源について、白鳥(1970)は「朝鮮語伴を동모(tongmo)と云ふ、国語トモ(tomo)と語源を同うすること疑うべきにあらず。」と述べており、金思燁(1981)によれば「トンム(동무)は古代朝鮮語であり、古代朝鮮語ではトンモ(동모)と言った」ということから、「トンム」は古代朝鮮語に遡る語であると思われる。

「トンム」という言葉について、中国、北朝鮮、韓国、日本で刊行された辞書を調べて見ると、それぞれ次のような解釈が載っている。

a 『조선말사전(朝鮮語辞典)』

(延辺社会科学院言語研究所編, 延辺人民出版社, 1995年, 中国)

동무(동) (トンム(同))

- 1 <공동의 리상과 혁명적위업을 이룩하기 위하여 함께 싸우는 사람> 을 이르는 말.
(〈共同の理想と革命偉業のために一緒に戦う人〉を指すことば.)
- 2 같이 어울리어 사귀는 사람.
(一緒に付き合う人.)
- 3 일반적으로 남을 무관하게 부를때 쓰는

말.

(一般に他人を呼ぶときに使う言葉)

b 『현대조선말사전(現代朝鮮語辞典)』

(社会科学院言語学研究所編, 科学百科事典出版社, 1981年, 北朝鮮)

동무(동) (トンム(同))

- 1 로동계급의 혁명위업을 이룩하기 위하여 혁명대오에서 함께 싸우는 사람들을 친근하게 이르는 말.
(労働階級の革命偉業のために革命隊伍と一緒に戦う人達を親しく指す言葉.)
혁명동지를 부르거나 가르키는 말.
(革命同志を呼んだり指したりする言葉.)
- 2 같이 어울려 사귀는 사람.
(一緒に付き合う人.)
- 3 일반적으로 남을 무관하게 부를때에 쓰이는 말.
(一般に他人を呼ぶときに使う言葉.)

c 『새우리말큰사전(新ウリマル大辞典)』

(申琦澈・申瑢澈編, 三省出版社, 1986年, 韓国)

동무(동) (トンム(同))

- 1 늘 친하게 함께 어울려 노는 사람.
(いつも親しく一緒に遊ぶ人.)
- 2 어떤 일을 하는데 서로 짝이 되거나 함께 일하는 사람.
(ある物事をするのに相棒になる人, 又は一緒に働く人.)

d 『동아새국어사전(東亜新国語辞典)』

(李基文編, 東亜出版社, 1986年, 韓国)

동무(동) (トンム(同))

- 1 벗, 친구. (友達, 友人)
- 2 어떤 일을 하는데 서로 짝이 되거나 함께 일하는 사람.
(ある物事をするのに相棒になる人, または一緒に働く人.)
- 3 한 덕대밑에서 같이 일을 하는 인부.
(鉸山で同じ下請けのもとで一緒に働く人夫.)

e 『朝鮮語辞典』

(小学館・韓国金星出版社共同編, 小学館, 1993年, 日本)

동무 [トナム]

I ㉠ 1 友達, 親友, 朋友. ㉠ 친구

2 (ある物事を一緒にする) 仲間, 連れ, 連中, 相棒, ともがら.

3 (鉱山で) 同じ下請けのもとでの仕事仲間.

▲ 共和国でよく用いられ, 韓国では合成語以外は 친구 を用いるのが普通.

II ㉡ ㉢ 〈共和国・中国で〉 - さん, - 君.

以上取り上げた五つの辞書による「トナム」の解釈について整理すると,

- ① 友達, (ある物事を一緒にする) 仲間という意味ではいずれもまったく同じである.
- ② 「共同の理想と革命偉業のために一緒に戦う人」を指す言葉であるという定義については, 中国と北朝鮮の辞書においては取り上げているが, 韓国, 日本の辞書においてはまったく触れていない.
- ③ 呼称として「革命同志」を呼ぶ時に用いることについて, 中国と北朝鮮の辞書では取り上げているが, 韓国, 日本の辞書では触れていない.
- ④ 一般の人を呼ぶ呼称として, 中国と北朝鮮, 日本の辞書では取り上げているが, 韓国の辞書ではまったく触れていない.

以上のように, 各辞書では「友達」としての「トナム」については共通しているが, 呼称用法については統一されず, 各辞書から「トナム」の語義に関する差異が見られる.

また, 「トナム」を使った「어깨동무 (年や背が同じ友)」、「소꿉동무 (幼なじみ)」という合成語は北朝鮮, 中国, 韓国でも使われているが, 上述したように韓国では日常生活で「トナム」を使うことを忌避し, 「友達」を表すときは「친구 [友達]」、「벗 (友達)」を用いる.

北朝鮮の辞書には「友達」としての「トナム」について, 次のような用例も載っている.

- (1) 아까 왔던 사람이 누구냐?
(さっき来た人は誰なの?)
우리공장에 있는 동무예요.
(工場と一緒に働いている友達です.)

『현대조선말사전 (現代朝鮮語辞典)』

「トナム」が「友達」として使われる例は中国朝鮮族の書いた文学作品の中にも頻繁に現われる(用例 2, 3, 4).

(2) 동무간에 별 새빠진 소리를 다 하는구나.
(友達の間でそんなに遠慮するの?)

「두 령감 (二人の爺さん)」

(3) 들어보내세요. 그 선생님은 저의 동무예요.
(入れてやってください. その先生は私の友達です.)

「착각의 미감 (錯覚の美感)」

(4) 내 동무들은 말한대로 하는 대장부들이요.
(私の友達は皆有言実行の男ですよ.)

「잔치안날 (結婚前日)」

また, 「トナム」は子供達の間でも使われている(5).

(5) 「유치원 동무들과 같이 사자보러 갑니다.」
라며 시월이는 손벽을 치며 좋아했다.
(幼稚園の友達と獅子を観に行きます.)
と言って, 詩月は手をたたいて喜んだ.)

「쌍둥이자매 (双子姉妹)」

2-2. 「トナム」の呼称化

以上, 中国, 北朝鮮, 韓国, 日本の辞書に載っている「トナム」の語義の関する解釈を整理して見たが, ここでは「トナム」の呼称化について若干の考察を試みる.

呼称とは, 話しの相手を, 話し手がどのような言葉で指すかの問題であり, 呼称には直接話し相手に呼びかける際に用いられる「呼びかけ語」と, その人のことについて言及する際に用いられる「言及語」の二種類がある(陣内 1990). ただし本稿では, 「呼びかけ語」としての呼称を中心に考察を行うことにする.

呼称の表現形式は様々であるが, 金水(1989)は一人称代名詞, 二人称代名詞, 実名・愛称, 地位・役職名, 職業・役割名, 親族名, 年齢階梯語の7種類に分類した. これに対し, 朴(1989, 11-12)は韓国社会で使われている呼称を更に①感嘆詞②姓名一接辞③身分名④親族語⑤姓名一助詞⑥代名詞⑦名詞⑧宅号⑨外来語など9種類に細分類した.

その中で, 名詞は相手を高く扱ったり, 婉曲な

表現をしたりするために呼称として使われる（朴 1989, 18）. たとえば「夫人」, 「先生」などの名詞である. それと同様, 「同じ目標のために一緒に戦う人達」を親しく扱う表現をするために, 名詞である「トンム」も呼称として使われてきたのではないかと考えられる.

3. 中国朝鮮族社会における「トンム」の史的変遷

言語の通時の変化は, 全てある種の音韻変化のように言語現象内部で自律的に行われるものではなく, その中に他の社会的現象にリンクされ, 社会的変化に敏感に反応しながら変化していく他律的な側面も存在している（彭 2000）. そこで呼称としての「トンム」の用法が具体的にどのように変化してきたかを, 中国の政治情勢の変化にそって区分した4つの時期ごとに考察していくことにする. 無論, 安易に一つ一つの社会的事件や事変をそのまま言語変化の原因と結びつけることは慎重であるべきだが, 政治的, 社会的出来事を通して, その背後に人々の価値観が大きく変化し, 人間関係も次第に変化していくことが想像されるため, 「トンム」の変化を中国社会の変化と照らし合わせながら考察することは意義のあることと思われる.

3-1. 新中国成立前の「トンム」

新中国⁽⁷⁾ 成立前の30年代, 40年代の作品にすでに「トンム」が呼称として使われている様子を見ることができる.

表1で朴民は性別に関係なく, 隊員を「トンム」と呼びかけている. 他の作品でもパルチザンの隊員らは互いに「トンム」で呼びかけている.

(6) 동무들, 이놈들을 산으로 압송해 갑시다.
(トンム達, こいつらを山に押送しましょう.)

「혈해지창 (血海之唱)」

上の用例(6)はパルチザン隊員である主人公がパルチザン隊員同僚らに向かって「トンム」で呼びかけている場面であるが, 一般の民衆に呼びかける時は「여러분 (皆さん)」という呼称を使い, 「トンム」という呼称を使わない(7). このような用例から「トンム」は共産主義者たちの中で呼称として使われていたと考えられる.

(7) 여러분, 어서 피하십시오.

(皆さん, 早く避難してください.)

「혈해지창 (血海之唱)」

この時期の他の作品でも, 共産主義者である春実と善玉, 金はお互いに「姓+トンム」, 「名+トンム」と呼びかける(8).

(8) a. 金→春実:

춘실동무, 시간이 거의 되어가는데 얼른 모여야지요.

(春実トンム, もうそろそろ時間ですので早く集まらなくては.)

b. 春実→金:

김동무, 아직 회의시간 멀었어요.

(金トンム, 会議時間はまだですよ.)

c. 春実→善玉:

춘실동무, 그럼 갑시다.

(春実トンム, 行きましょう.)

「너 이놈 (この野郎)」

また, 春実は蓮淑という女性と話す場面で, 主婦である蓮淑をテクノニミーで呼んでいたが(9), 後に, 蓮淑が共産主義者となり, 二人が再会した時はお互い「名+トンム」で呼びかけている(10).

(9) 春実→蓮淑:

옥희어머니, 그럼 옥희어머니가 동철씨의 누이동생이세요?

【表1】「싸우는 밀림 (戦う密林)」における「トンム」呼称

話し手 (職名, 年齢, 性別)	話し相手 (職名, 年齢, 性別)	用例
朴民 ⁽⁸⁾ (パルチザン軍需部長, 30代, 男)	桂順 (パルチザン隊員, 30代, 女)	桂順トンム
	金 (パルチザン通信兵, 20代, 男)	金トンム

(玉姫のお母さん, 玉姫のお母さんが東哲氏の妹ですか.)

「너 이놈 (この野郎)」

(10) a. 蓮淑→春実:

춘실동무 계세요?

(春実トナム, いらっしゃいますか.)

b. 春実→蓮淑:

련숙동무구만요.

(蓮淑トナムですね.)

「너 이놈 (この野郎)」

以上のように、「トナム」は新中国成立までは「労働階級の革命偉業のために一緒に戦う革命同志」という意味が強く、共産主義者の中で使われ、社会全般で一般的に使われる呼称ではなかった。その時期の呼称としての「トナム」は共産主義理念で結ばれた仲間である印であり、「共通の理想や事業のために戦っている」対等の関係であることを表していたことが明らかになった。

3-2. 新中国成立後から「文化大革命」までの

「トナム」呼称

この時期の作品を調べて見ると、「トナム」が様々な組み合わせで現われ、地位、年齢、性別に関係なく幅広く使われていることが分かる。

(11) a. 万洙→哲浩:

철호동무, 교대는 끝났습니다.

(哲浩トナム, 交替は済みました.)

b. 哲浩→万洙:

만수동무, 마침 잘 오셨습니다.

(万洙トナム, ちょうどいいところに来られました.)

「귀환병 (帰還兵)」

(12) a. 主任→哲浩:

철호동무!

(哲浩トナム!)

b. 哲浩→主任:

주임동무, 어서 앉으십시오.

(主任トナム, どうぞおかけください.)

「귀환병 (帰還兵)」

上の用例で、同じ職場で働く哲浩、万洙は互いに「名+トナム」で呼び(11)、上役である主任には「地位・役職名+トナム」で呼んでいる(12)。

また、表2でも合作社⁽⁸⁾の社員達は主任である李を「トナム」と呼んでいる。互いに地位、年齢、性別に関係なく「トナム」で呼び合っていることが分かる。

表3の光日、朴浩と金昌国は同じ職場で勤務し、光日と朴浩は農機具修理工場の労働者で、工場長である金昌国は光日、朴浩より10歳年上である。三人は年齢、地位に関係なくそれぞれ「名+トナム」、「姓+トナム」、「地位・役職名+トナム」と呼びかけている。

【表2】「합작사는 내집이다 (合作社は我が家である)」における「トナム」呼称

話し手 (職名, 年齢, 性別)	話し相手 (職名, 年齢, 性別)	用例
朴 (合作社社員, 52歳, 男)	李 (合作社主任, 35歳, 男)	主任トナム
李 (合作社主任, 35歳, 男)	朴溶子 (合作社監察員, 20歳, 女)	溶子トナム
朴溶子 (合作社監察員, 20歳, 女)	李 (合作社主任, 35歳, 男)	主任トナム
	馬軍哲 (合作社文書, 27歳, 男)	文書トナム
金南哲 (合作社水利管理員, 40歳, 男)	朴溶子 (合作社監察員, 20歳, 女)	溶子トナム
馬軍哲 (合作社文書, 27歳, 男)	朴溶子 (合作社監察員, 20歳, 女)	監察員トナム
	李 (合作社主任, 35歳, 男)	主任トナム

【表3】「5.1 전야 (메ーデー前夜)」における「トナム」呼称

話し手 (職名, 年齢, 性別)	話し相手 (職名, 年齢, 性別)	用例
光日 (労働者, 27歳, 男)	朴浩 (労働者, 35歳, 男)	トナム
	金昌国 (工場長, 45歳, 男)	工場長トナム
朴浩 (労働者, 35歳, 男)	金昌国 (工場長, 45歳, 男)	工場長トナム
金昌国 (工場長, 45歳, 男)	光日 (労働者, 27歳, 男)	光日トナム
	朴浩 (労働者, 35歳, 男)	朴トナム

更に、他の作品ではこのような用例が現われる(13, 14).

(13) 東浩→貞順:

정순동무, 내 편지를 받았소?
(貞順トナム, 私の手紙受け取ったの?)
「김원장일가 (金院長一家)」

(14) 桂月→哲浩:

철호동무, 오늘저녁에 하자던 토론을 래일로 미루자고 어머니에게 말씀 여주세요.
(哲浩トナム, 今晚しようとした話を明日に延ばすようにお母さんに申しあげてくださいね.)

「간호장 (看護婦長)」

上の用例(13), (14)は、東浩と桂月がそれぞれ恋人である貞順と哲浩を呼ぶ時の「トナム」呼称の用例で、恋人の間でも互いに「トナム」が使われている。

今まであげた用例は同僚や友人、恋人など、呼びかける者と呼びかけられる者は知り合いであった。次にあげる用例は初対面の人に対して呼びかけているものである。

(15) 李延→若い女性:

동무, 저 과일을 몇근만 팔지 않겠습니까?
(トナム, あの果物を何斤か売りませんか.)

「꽃피는 삼월 (花咲く三月)」

上の用例(15)は李延が知らない若い女性に果物を売ってくれるよう頼む場面で、彼は同年輩の彼女を「トナム」と呼んでいる。

(16) a. 朴浩→順姫:

동무, 누가 트랙토르를 몰고 들어오라고 했소?

(トナム. 誰がトラクターを運転して入るよう許可しましたか.)

b. 順姫→朴浩:

동무, 급한 일로 왔는데 책임동지 계시는가요?

(トナム, 急用があつてきましたが、責任者がいらっしゃいますか.)

「5.1 전야 (메ーデー前夜)」

(17) 金昌国→順姫:

운전수동무, 수고 많이 했소.

(運転手トナム, ご苦労様でした.)

「5.1 전야 (메ーデー前夜)」

トラクターが壊れて修理に尋ねてきた順姫と修理工である朴浩は初対面であり、お互い「トナム」で呼びかける(16)。同じく金昌国も順姫とは初対面であるが、順姫の職業を知った金昌国は職業に「トナム」を加えて彼女を呼んでいる(17)。

(18) 支配人→学生:

학생동무, 내가 지배인이요. 무슨 일인데?

(学生トナム, 私が支配人だけど、何の用?)

「그림책 (絵本)」

用例(18)では大人の支配人が小学生にも「トナム」で呼びかけているが、親しみを込めた言い方となり、呼ばれた子も「貴方は僕より年がずっと上だけれども、ちゃんと僕を一人前の大人と認めてくれている」と感じて喜ぶ。

以上の用例から、「トナム」が様々な人間関係で広く使われていたのが分かる。この時期、中国

では1949年社会主義体制に変わってから、公私合営、生産合作社が実施されるなど、社会主義改造を完成させ、人々の経済的平等を図ろうとした。平等思想が提唱され、中国共産党はもともと共産党員の間で使われていた中国語の「同志 (tongzhi)」という呼称を「新中国人の新しい人と人との平等な関係」を示す呼称として国全体に広めた。政治的にすべてを統一するような一つの呼称の使用を進めることによって、すべての人を同じ立場に置こうとしたという (Scotton and Zhu 1983)。その影響は朝鮮族社会にも及んできた。「전국이 해방된 후 당의 교양 밑에서, 그리고 생산의 발전과 문화수준이 높아짐에 따라 우리나라 인민의 도덕 및 정신면모는 새로운 수준으로 발전하였다. 그리하여 애국주의와 집단정신은 대대적으로 발양되었으며 사람과 사람 사이에는 서로 존중하고 관심하며 도와주고 협조하며 단결우애하는 동지적인 관계가 이루어졌다. (全国解放後, 党の教養下で, そして生産の発展と文化水準の向上につれて我が国人民の道德及び精神面貌は新たな水準に発展した. 愛国主義と集団精神が大々的に發揮され, 人と人との間には互いに尊重し合い, 助け合い, 協力し, 団結友愛する同志的關係が結ばれた.)」(金 1982) という説明から分かるように, 新中国成立後, 朝鮮族社会でも新しい人間関係が結ばれた。「トンム」は一般的な呼称として, 朝鮮族社会で広範に使われるようになった。かつて共産主義者の中で使われていた「トンム」は, 新中国成立後共産党員ばかりでなく, 知らない人や同僚, 地位の高低, 年齢の差, 性別に関係なく広く用いられたことが指摘できる。

3-3. 「文化大革命」以降から中韓国交樹立までの「トンム」

1966年から1976年までの「文化大革命」は中国社会に大きな衝撃をもたらした。当時の人々の言語生活にも大きな影響を及ぼした。「文化大革命」中、江青をはじめとする「四人組」や林彪ら「文化大革命」を指導したグループは、中国朝鮮族文芸に対して、「民族血統論」といった大漢族主義の見地から様々な冤罪を被せ、多くの小説家、詩人、芸術家を朝鮮語ができるという理由から「朝鮮のスパイ」として駆逐した。これによって朝鮮

文雑誌が廃刊させられ、教育面でも朝鮮語の使用すら禁止されるに至った (柴田 1998)。「文化大革命」の時期は、朝鮮族文壇には真正な文学作品が一編もなかったといっても過言ではないだろう。したがって、本稿では「文化大革命」中の十年間は考察範囲から外すことにした。

1976年に「文化大革命」が終結し、その後改革開放が始まるが、このような社会変化の下で「トンム」がどのような広がりを見せたのかを、「文化大革命」以降の文学作品を通して考察してみよう。

表4に示した「첫봄 (新春)」に出てくる登場人物たちのお互いの呼称には、様々な「トンム」の組み合わせが現われる。表4の中で現れる各人物は地位、性別、年齢差に関係なくお互い「トンム」で呼び合う。これは「文化大革命」以前と変化が無い。

しかし、表5で分かるように、「トンム」呼称は老年層に対して使われず、老年層の間でも使われない。下の世代から老年層には「アバイ (おじいさん)」など親族呼称で呼んでいるが、これはおそらく、「トンム」が持つ「友達」という本来の意味から、世代序列を重要視する朝鮮民族の伝統的な考えに反するため、老年層には使えないと考えられる。

上述の現象は次の作品にも現れている (表6)。表6で、金権が羅、柳哲、林ら三人を「トンム」で呼びかけているのに対して、三人が金権を呼ぶときは役職名または「アバイ」で呼び、「トンム」を使わない。それは、金権の年齢が60代で、老年層であるからである。

また、恋人同士が互いに「トンム」で呼び合ったりする現象もこの時期の作品にも現れる。

(19) 甲順→炯吉：

아이참 동무! … (省略)

그러길래 답군요. 형길요빠, 아이참 또 제가…전에 그렇게 부르던 버릇이 떨어지지 않는군요. 그렇잖아도 지금도 어머니앞에서 동무를 오빠라고 하자니…

[あら, トンム! … (省略)]

それで暑いね、炯吉お兄さん、あら、私ったら…昔、そう呼んでいた癖が直らないですね。そうでなくても今も母さんの前で

【表4】「첫봄 (新春)」における「トンム」呼称

話し手 (職名, 年齢, 性別)	話し相手 (職名, 年齢, 性別)	用例
姜鉄友 (生産隊 ⁽¹⁰⁾ 長, 42歳, 男)	玉順 (婦女隊長, 35歳, 女)	玉順トンム
	朴 (人民公社 ⁽¹¹⁾ 書記, 50歳, 男)	朴書記トンム
	万福 (生産隊副隊長, 43歳, 男)	万福トンム
錦丹 (社員, 23歳, 女)	哲洙 (社員, 25歳, 男)	哲洙トンム
哲洙 (社員, 25歳, 男)	李貴男 (人民公社主任, 42歳, 男)	李主任トンム
朴 (人民公社書記, 50歳, 男)	姜鉄友 (生産隊長, 42歳, 男)	姜トンム 鉄友トンム トンム 姜鉄友トンム
万福 (生産隊副隊長, 43歳, 男)	玉順 (婦女隊長, 35歳, 女)	玉順トンム
	朴 (人民公社書記, 50歳, 男)	朴書記トンム
李貴男 (人民公社主任, 42歳, 男)	姜鉄友 (生産隊長, 42歳, 男)	姜トンム
	玉順 (婦女隊長, 35歳, 女)	玉順トンム
	朴 (人民公社書記, 50歳, 男)	朴書記トンム

【表5】「첫봄 (新春)」における老年層に対する呼称形式

話し手 (職名, 年齢, 性別)	話し相手 (職名, 年齢, 性別)	用例
姜鉄友 (生産隊長, 42歳, 男)	崔 (社員, 60歳, 男)	崔アバイ
	呉 (社員, 60歳, 男)	呉アバイ
玉順 (婦女隊長, 35歳, 女)	崔 (社員, 60歳, 男)	崔アバイ
朴 (人民公社書記, 50歳, 男)	呉 (社員, 60歳, 男)	老人ニム ⁽¹²⁾
呉 (社員, 60歳, 男)	崔 (社員, 60歳, 男)	崔令監

トンムをお兄さんと呼ぼうとするなんて…)
「어머니, 시름놓으세요 (母さん, 安心して
ください)」

甲順は自分の兄の友人である炯吉を「お兄さん」と呼んでいたが、交際を始めてから「トンム」と呼ぶようになる。しかし、「トンム」という呼称

より「お兄さん」という呼称に慣れてきたため、不意に「お兄さん」という呼称が飛び出たりして、困ったりする (19)。

(20) 氏男→桂玉:

이젠 이 정도로 됐는데 그냥 이름부르면 좋겠니? 일수형님네랑 서로 이름뒤에 동무

【表6】「열과 냉 (熱と冷)」における呼称形式

話し手 (職名, 年齢, 性別)	話し相手 (職名, 年齢, 性別)	用例
金權 (県人民代表大会 ¹³⁾ 常務委員兼 副主任, 60代, 男)	羅 (県人民代表大会役員, 40代, 男)	羅トンム
	柳哲 (作家, 30代, 男)	柳トンム
	林 (県水利局局長, 40代, 男)	林局長トンム
羅 (県人民代表大会役員, 40代, 男)	金權 (県人民代表大会常務委員兼 副主任, 60代, 男)	金主任 アバイ
柳哲 (作家, 30代, 男)	金權 (県人民代表大会常務委員兼 副主任, 60代, 男)	金主任
	羅 (県人民代表大会役員, 40代, 男)	羅トンム
林 (県水利局局長, 40代, 男)	金權 (県人民代表大会常務委員兼 副主任, 60代, 男)	金主任
	羅 (県人民代表大会役員, 40代, 男)	羅トンム

라는 두글자를 붙이는데 옆사람까지 포근 해나더라.

(もうこんな関係になったのに名前も呼び捨てにしていいの? 日洙お兄さんらはお互いに名前の後ろにトンムを付けているんだけど, ほほえましい.)

「고추로친 (唐辛子ばあさん)」

用例 (20) で, 婚約者同士の氏南と桂玉は, お互い呼び捨てにしていたが, 先輩 (日洙) 夫婦を見習って, これからはお互いの呼称を「トンム」にすることを決める (20).

更にこの時期には, 今まで見られなかった夫婦間, 特に若い夫婦の間でお互いに「トンム」で呼び合う用例が現われる (21, 22, 23).

(21) 妻→夫:

동무, 동무는 왜 그리 태평입니까. 동무아 버지가 사망했다면 안 그럴겁니다.

(トンム, トンムは何故そんなにのんきなんですか? トンムのお父さんが死んだら, そんなにのんきにいられないでしょう.)

「녀자왕국안의 남자왕국 (女王国の中の男王国)」

(22) 妻→夫:

동무, 쓸데없는 일에 작작 빠치세요.

(トンム, 余計なことに口出ししないでね.)

「꽃피는 우리생활 (花咲くわが生活)」

(23) a. 夫→妻:

동무, 동무생각엔 도적이 누구일것 같소? (省略) 난 이미 도적이 누구인가 알아냈소.

[トンム, トンムは泥棒が誰だと思う? (省略) 俺はもう泥棒が誰だか分かった.]

b. 妻→夫:

네? 동무! 헛소리... (省略) 그런 일에 제발 빠치지 말아요.

[へ? トンム! でたらめなこと... (省略) そんなことにどうか手を出さないでください.]

「옆집사건 (隣家事件)」

「文化大革命」以前は夫婦の間で「トンム」が使われる用例はほとんど現われませんが, 意識的に互いに距離を置くために「トンム」を使う用例はある.

(24) 夫→妻:

당신, 아니 동무, 어떻게 하는것이 좋겠

全？

(あなた、いや、トンム、どうしたらいいでしょうか。)

「귀환병 (帰還兵)」

用例 (24) では、妻と別れを決心した夫が「당신」(夫婦の間において、互いに尊敬と愛情を表す言葉として用いる時に使われる言葉) という夫婦の間の呼称を避け、わざと自分の妻を「トンム」と呼ぶ。「トンム」を使って「他人同士である」という気持ちを表し、意識的に妻と距離を置こうとしていると考えられる。このように「文化大革命」以前は「トンム」がまだ夫婦の間で使われていなかったものの、「文化大革命」以降は夫婦呼称として「トンム」が使われていることが指摘できる。

「トンム」が夫婦の間で使われるようになった原因については、三つの要因が考えられる。一つは朴甲洙 (1989, 25) の指摘のように「韓国語は夫と妻を呼称する言葉が発達していない。したがって夫婦相互間の呼称も一定した言葉が無く、状況によっていろいろなものが使われる。」という、定型化した夫婦呼称が使用されていないことである。二つ目は、夫婦関係は他の親族関係に比べ血縁によって連結されていない (王翰碩 1990) からである。三つ目は、夫婦関係は親族関係の中で一番対等に近い関係であるため、血縁による上下関係が厳しい他の親族関係より「トンム」が使える可能性が高かったことである。

このように、この時期の朝鮮族社会では「文化大革命」以前に使われていた「トンム」が依然として広範に使われていただけでなく、使用範囲をさらに広げ、夫婦のような親族関係でも使われるようになった。当時の朝鮮族の社会生活の中での呼称について、金琪鍾 (1984) は次のように言っている。「(前略) 무엇보다도 우리인민의 사상 감정과 언어생활의 요구에 맞게 불러야 한다. 우리는 집단생활을 포함한 모든 생활에서 서로 『동무』로 불러오고 있다. 『동무』는 혁명동지를 친근하게 부르거나 일반적으로 남을 무관하게 부를 때 쓰인다. (何よりも我が人民の思想感情と言語生活の要求に合う呼び方をしなければならない。我々は集団生活を含めた全ての生活の中で互いに『トンム』と呼んでいる。『トンム』は革命同志を

親しく呼んだり、一般的に他人を無難に呼んだりする時に使われる)」。当時の朝鮮族社会において、集団意識と集団の中の成員間の平等を重視する価値観は、まだ根強く残っており、もっとも無難で一般的な意味での「トンム」が使われる一種の安定期であったと思われる。また、夫婦の間でも使われるようになったことは、「トンム」の政治的色彩が薄れていく傾向を裏付けるものといえるだろう。

3-4. 中韓国交樹立以降から現在までの「トンム」

1992年中韓国交樹立を前後して、それまでほとんど没交渉であった韓国との交流が盛んになるに伴って、韓国からの影響が急激に中国朝鮮族社会に現れ始め、朝鮮族の生活に大きな変化をもたらしている。その影響は朝鮮族の言語生活にも顕著に現われ、文学作品からもその変化が見られる。

この時期の作品を見ると、表7で分かるように、秘書や羅哲は上役または下役を呼ぶときに、地位・役職名のみで呼び、「トンム」と呼んでいない。崔は自分より年齢は下でも、上役である羅哲に対し、役職名で呼んだり、「トンム」で呼んだりする。また、羅哲と白俊賛は職務上ほぼ対等であり、年齢差もなく二人はお互い「トンム」で呼び合うが、白俊賛は人の前では羅哲を役職名で呼ぶときもある。このように政府機関の幹部の間でも「トンム」が使われることが減り、その代わりに地位・役職名がそのまま呼称としてよく使われることが分かる。

特に表8を見ると、「トンム」がほとんど使われていない現象が目立つ。「トンム」呼称の代わりに地位・役職名に「-ニム (様)」をつけて呼ぶことが多く、この作品では政府の役員である李 (省政協主席) だけが廉を「トンム」と呼んでいる。

このように、かつて同僚や上役にも使っていた「トンム」は、特に上役に使う現象がなくなり、この時期に入っては、政府機関の役員の間でさえ、話し相手を「トンム」呼称よりも地位・役職名で呼ぶ傾向が強い。社会的な関係で頻繁に使われていた「トンム」はもはや衰退しつつある。

これに対して、夫婦呼称として「トンム」が使われる用例は現在でも多く見られる (25, 26, 27)。

【表7】「스진의 풍경 (스鎮⁽¹⁴⁾의 風景)」における呼称形式

話し手 (職名, 年齢, 性別)	話し相手 (職名, 年齢, 性別)	用例
秘書 (市長秘書, 40代, 男)	金 (市長, 50代, 男)	金市長
崔 (副鎮長, 50代, 男)	羅哲 (鎮長, 40代, 男)	羅トンム 羅鎮長
羅哲 (鎮長, 40代, 男)	崔 (副鎮長, 50代, 男)	崔鎮長
	李 (鎮派出所所長, 40代, 男)	李所長
	白俊賛 (鎮党委書記, 40代, 男)	白トンム
	朴 (鎮銀行行長, 50代, 男)	朴行長
	白 (鎮林業局課長, 40代, 男)	白課長
	崔 (鎮事務室主任, 30代, 男)	崔主任
白俊賛 (鎮党委書記, 40代, 男)	羅哲 (鎮長, 40代, 男)	羅トンム 羅鎮長
	崔 (副鎮長, 50代, 男)	崔鎮長

【表8】『녀사장의 이야기 (女社長の物語)』における呼称形式

話し手 (職名, 年齢, 性別)	話し相手 (職名, 年齢, 性別)	用例
崔金哲 (ホテル人事課長, 20代, 男)	徐敏 (ホテル社長, 36歳, 女)	社長ニム 徐社長ニム
林華 (ホテル実務室長, 20代, 女)		社長ニム 徐社長ニム
廉 (ホテル会長兼省政協委員, 60代, 男)		徐社長
鄭 (市数理学会秘書長, 40代, 男)		徐社長
徐敏 (ホテル社長, 36歳, 女)	崔金哲 (ホテル人事課長, 20代, 男)	崔課長
	廉 (ホテル会長兼省政協委員, 60代, 男)	廉会長ニム
	崔明一 (ホテル広報部長, 40歳, 男)	崔先生 明一氏
	王 (省数理学会処長, 50代, 男)	王処長ニム
李 (市政協 ⁽¹⁵⁾ 主席, 60代, 男)	廉 (ホテル会長兼市政協委員, 60代, 男)	廉トンム

(25) 妻→夫:

동무, 래일 본가집으로 같이 가보지 않겠슴

니까?

(トンム, 明日私の実家に一緒に行きません)

か.)

「흘러가는 겨울 (流れ行く冬)」

(26) a. 妻→夫

동무, 좀 사랑살랑 말하쇼. 사람들이 다 보겠습다. 동무는 어제 도리시비도 없습까? (トナム, ちょっと小声で言いなさい. 皆見えていますよ. トナムは何故道理が分からないんですか.)

b. 夫→妻

어이, 동무, 내 도리시비 없소, 동무 도리시비 없소?

(オイ, トナム, 俺が道理が分からないの, トナムが分からないの?)

「서로의 감옥 (互いの監獄)」

(27) 妻→夫

동무, 몰라서 그런 얘기 합니까? 이것저것 떼여내면 남은 돈이 어디 있습니까?

(トナム, 何も知らずにそんなことを言うんですか. あれこれ差し引いたら残るお金がどこにあるんですか.)

「A진 회갑상 술집 (A鎮 還暦膳, 酒場)」

中韓交樹立後, 北朝鮮より韓国の影響が強くなった現在, 「トナム」の使用は急激に減り始めていく傾向が現われた. 社会一般で最もよく使われていた通称としての「トナム」の地位は弱まり, むしろ夫婦の間で使われていることが多くなった.

2002年筆者が中国延辺で行った呼称に関するインタビューとアンケート調査で, 若い人の口から「トナム」を聞くことはまずなかった. インタビューした20代前半の女性は「トナム」は「毛沢東時代」の言葉で, 今まで使ったことはないが, 自分の親世代が使うのを聞くことはあるという. 30代以下の世代の人たちには, 使われる頻度が随分少なくなっているか, またはまったく使われていないのかも知れない.

4. おわりに

以上, 本稿では, 社会言語学的立場から, 中国朝鮮族の言語生活における「トナム」呼称の史的变化及び「トナム」呼称使用と社会的な人間関係を, 社会変化と照らし合わせながら考察してきた.

まず, 中国朝鮮族社会で「トナム」は, 新中国成立前は共産主義者達の間で「革命同志」に対する呼称として使われてきたが, 新中国成立後, 共産党員に限らず, 地位・年齢・性別の差に関係なく, 一時期最も広く使われる社会的通称となつて, 80年代まで安定して使われてきた. そして, その使用範囲は夫婦の間にまで拡大されてきた. しかし, 中韓交樹立後, 「トナム」が朝鮮族社会で使われる頻度は衰退していく傾向が明らかになった.

次に, 「トナム」呼称の変遷と社会的変動および思想変化との並行性を捉えることができた. 「トナム」は共産主義者の中で「革命同志」に対する呼称から, 社会主義国家体制下の朝鮮族社会で社会的通称として普及し, 更に夫婦関係という親族関係にまで浸透しているが, これらに共通しているのは「平等性・対等性」であると考えられる. 社会主義体制になった中国では, 「人々平等」の社会主義国を建設するために, 一連の政策を実施した. 「平等性・対等性」が社会主義体制の平等思想の下で最も強調されていた時期, 「トナム」は朝鮮族社会で平等思想の象徴として広く使われてきた. しかし, 文化大革命以降, 特に現在朝鮮族社会において中国の改革開放路線による影響と, 韓国との交流による影響は非常に大きく, 社会全体が政治的な平等理念の追求より経済性を追求し, 人々の価値観も政治, 集団を重視することより, 経済, 個性を重視する方向へ変化してきた. 一方, 平等思想の象徴として広範に使われてきた「トナム」は, 社会的に用いられる頻度が低下してきた. このようなことから, 社会的変動と思想変化に平行して変化してきた「トナム」呼称の一つの側面を指摘することができると思われる.

注:

- (1) 「국어연구원게시판 (国語研究院掲示板)」(1999年10月30日付)には, 読者の「トナム (동무)」使用に関する異議に対して次のように解釈している. 「『トナム』という言葉は国語辞典に出てくる単語で, 文教部令第44号(1955), 文教部令第119号(1963)によって作られた国民学校(小学校)1学年国語教科書にもこの言葉が出るが, その後

教科書で見られなくなった。北韓で『トンム』という言葉を実際の意味とは別の意味として使うことが多かったため、わが国ではこの言葉を使うのを忌むというのも事実である。」(翻訳筆者、以下同様.)

- (2) 中国は56の民族からなる多民族国家である。その中で、朝鮮族(本稿では少数民族としての朝鮮民族という意味で用いる。以下同様.)は人口数からいって、第11番目に多い。1990年7月1日の「全国第4次人口普遍調査」によれば、中国には192万597名の朝鮮族が居住している。その97.1%が東北三省(吉林省、遼寧省、黒龍江省)に集中している。中国の朝鮮族は耕作地を求めて朝鮮半島から豆満江、鴨緑江を渡航してきた農民たち、およびその子孫から構成され、朝鮮族の多くは、日本が朝鮮を植民地支配していた時期、あるいはそれ以前に中朝国境地帯に移住した朝鮮人たちを一世としており、現在二世、三・四世と代を重ねつつある。
- (3) 詳しくは Scotton, C.M., and Zhu, W. (1983) を参照。
- (4) 中国朝鮮族は日常的に朝鮮語と中国語を使っている。詳しくは藤井(1993)を参照。
- (5) 中国での朝鮮語は「ピョンヤンの言葉」を基準として、「既存の標準語」を基に、「中国の実情」を加味するという規範化によって形成されている(전학석 1999, 熊谷1995)。
- (6) 用例出典
- 〈1〉「싸우는 밀림(戦う密林)」, 까마귀(193?), 『中国朝鮮族文学選集』7, 民族出版社。
- 〈2〉「혈해지창(血海之唱)」, 까마귀(193?), 『中国朝鮮族文学選集』7, 民族出版社。
- 〈3〉「너 이놈(この野郎)」, 신룡검(194?), 『中国朝鮮族文学選集』7, 民族出版社。
- 〈4〉「김원장일가(金院長一家)」, 黄奉龍(1955), 『黄奉龍戯曲集』, 民族出版社。
- 〈5〉「합작사는 내집이다(合作社は我が家である)」, 윤지현(1955), 『延辺朝鮮族自治州成立30周年 戯曲集』, 民族出版社。
- 〈6〉「간호장(看護婦長)」, 馬相玉(1956), 『短編小説集』, 延辺人民出版社。
- 〈7〉「귀환병(婦還兵)」, 최정연(1956), 『中国朝鮮族文学選集』7, 民族出版社。
- 〈8〉「그림책(絵本)」, 黄奉龍(1957), 『黄奉龍戯曲集』, 民族出版社。
- 〈9〉「꽃피는 삼월(花咲く三月)」, 徐光億(1962), 『短編小説集』, 延辺人民出版社。
- 〈10〉「5.1 전야(メーデー前夜)」, 김세영·최증현·김귀수(1964), 『中国朝鮮族文学選集』7, 民族出版社。
- 〈11〉「첫봄(新春)」, 최정연(1981), 『민들레(山つつじ)』, 延辺人民出版社。
- 〈12〉「고추로친(唐辛子おばあさん)」, 리철몽(1982), 『울고웃는 사람들(喜怒哀楽の人達) 戯曲集』, 延辺人民出版社。
- 〈13〉「쌍둥이자매(双子姉妹)」, 金学鉄(1982), 『金学鉄短編小説選』, 遼寧人民出版社。
- 〈14〉「잔치안날(結婚前日)」, 최봉석(1983), 『울고웃는 사람들(喜怒哀楽の人達) 戯曲集』, 延辺人民出版社。
- 〈15〉「착각의 미감(錯覚的美感)」, 李元吉(1983), 『20世紀中国朝鮮族文学選集』上, 延辺人民出版社。
- 〈16〉「두 령감(二人の爺さん)」, 金虎雄(1983), 『20世紀中国朝鮮族文学選集』上, 延辺人民出版社。
- 〈17〉「어머니 시름놓으세요(お母さん, 安心してください)」, 金勲(1985), 『민들레(山つつじ)』, 延辺人民出版社。
- 〈18〉「꽃피는 우리생활(花咲くわが生活)」, 李泰洙(1985), 『울고웃는 사람들(喜怒哀楽の人達) 戯曲集』, 延辺人民出版社。
- 〈19〉「녀자왕국안의 남자왕국(女王国の中の男王国)」, 李光洙(1987), 『中国朝鮮族文学選集』7, 民族出版社。
- 〈20〉「옆집사건(隣家事件)」, 孫龍虎(1990), 『文学叢書 아리란』71, 延辺人民出版社。
- 〈21〉「흘러가는 겨울(流れ行く冬)」, 崔国哲(1993), 『文学叢書 아리란』62, 延辺人民出版社。
- 〈22〉「八진의 풍경(八鎮の風景)」, 崔国哲(1995), 『文学叢書 아리란』62, 延辺人民出版社。
- 〈23〉「A진 회갑상 술집(A鎮 還曆厝 酒場)」, 崔国哲(1995), 『文学叢書 아리란』62, 延辺人民出版社。
- 〈24〉「서로의 감옥(互いの監獄)」, 李惠善(1996), 『李惠善作品集』, 黒龍江朝鮮族民族出版社。

- 〈25〉『녀사장의 이야기 (女社長の物語)』, 朴香淑 (1998), 延辺人民出版社.
- (7) 中国国内では、慣習上 20 世紀の中国社会について 1949 年を境に、前期は「旧中国」、後期は「新中国」と呼び分けられている。新・旧中国の間のもっとも大きな違いは社会制度の違いである (彭 2001)。
- (8) 作品の登場人物の名前には便宜上漢字を当てた。以下同様。
- (9) 普通, 1950 年代, 中国農村に作られた協同組合組織を指す。農業集団化政策の展開として初級合作社から高級合作社へと発展し, 1958 年, 人民公社成立の基礎となった (見田ら 1994)。
- (10) 生産隊を基本採算単位とする体制。省→県→人民公社→生産大隊→生産隊。生産隊が存在した集団農業時代には, 行政兼生産組織としての生産隊の役員は隊長, 副隊長, 婦女隊長, 会計, 出納係りなどの役員から構成される。
- (11) 1985 年, 中国農村に社会構造の基礎単位として設立された組織。工・農・商・学・兵の機能を合わせもち, かつ政権機構と経済組織を一体化したコミュニティ的なものとして, 中国社会主義のもっともユニークな制度とされた (見田ら 1994)。
- (12) 「-님 (-님)」(接尾語) は人名・官名・職名などや, 一部の名詞について尊敬を表す。-さん, -様, -殿。
- (13) 人民が国家権力を行使する機関。全国人民代表大会は最高国家権力機関で, 地方の人民代表大会は地方国家権力機関である。全国と県級以上の地方には, 常務委員会がある (見田ら 1994)。
- (14) 中国の行政単位の一つ。「郷」と並んで「県」の下に位する行政単位である。
- (15) 全国人民民主統一前線の組織形式である。

参考文献

- 최윤갑 (1997), 한국·조선·중국에서의 조선어의 변화 (韓国・朝鮮・中国における朝鮮語の変化), 『회고와 전망 (回顧と展望)』, 遼寧民族出版社, 225-243.
- H.Q. Fang and J.H. Heng (1983), Social Changes and Changing Address Norms in China, *Language in Society*, 12, 495-507.
- 彭国躍 (2000), 『近代中国語の敬語システムー「陰陽」

文化認知モデル』, 白帝社.

彭国躍 (2001), 現代中国語の敬語と呼称問題, 『特集 新世紀社会と敬意表現』, 勉誠出版, 115-117.

藤井幸之助 (1993), 中国朝鮮族の二言語使用及び民族意識に関する予備調査, 『アジア市民と韓朝鮮人』, 日本評論社, 272-297.

陣内正敬 (1990), 「サザエさん」に見られる呼びかけ語, 『言語文化論究 (九州大学言語部)』 1, 71-77.

朝鮮民主主義共和国社会科学院言語学研究所編 (1981), 『현대조선말사전 (現代朝鮮語辞典)』 第 2 版, 科学百科事典出版社.

金東春編 (1982), 『언어와 사회생활 (言語と社会生活)』, 延辺人民出版社.

金琪鍾 (1984), 『언어와례절 (言語と礼節)』, 遼寧人民出版社.

김상원 (1994), 중국과 한국에서 쓰이는 우리말 호칭비교 (中国と韓国で使うウリマル呼称比較), 『中国朝鮮族文化研究』, 92-107.

金思燁 (1981), 『古代朝鮮語と日本語』, 六興出版.

熊谷明泰 (1995), 中国における朝鮮語語彙規範の変遷, 『県立新潟女子短期大学研究紀要』 32, 1-14.

李基文編 (1986), 『동아새국어사전 (東亜新国語辞典)』 改定版, 東亜出版社.

見田宗介・栗原彬・田中義久編 (1994), 『社会学事典』 縮刷版, 弘文堂.

朴甲洙 (1989), 國語呼稱의 實狀과 對策 (国語呼称の実状と対策), 『国語生活』 19, 10-32.

P. 트라ッドギル著 土田滋訳 (1975), 『言語と社会』, 岩波新書.

전학석主編 (1999), 『중국조선족언어문자교육 사용 상황연구 (中国朝鮮族言語文字教育使用状況研究)』, 延辺大学出版社.

ロナルド・ウォードハフ著 土田滋・本名信行訳 (1994), 『社会言語学入門』, リーベル出版.

盧濤 (2001), 说“朋友”, 『中国語学』 248, 274-289.

盧濤 (2002), “文化”考, 『中国語学』 249, 247-266.

Scotton, C.M., and Zhu, W. (1983), Tongzhi in China: Language change and its conversational consequences, *Language in Society*, 12, 477-494.

柴田孝 (1998), 中国に根を下ろす朝鮮族—文学作品に見る民族アイデンティティーの軌跡—, 『海外時事情 (拓殖大学海外事情研究所)』 41, 37-51.

申琦澈・申溶澈編 (1986), 『새우리말큰사전 (新ウ

リマル大辞典』第3版, 三省出版社, ソウル.

白鳥倉吉 (1970), 日本の古語と朝鮮語との比較, 『白鳥倉吉全集 日本上代史研究 下』, 岩波書店, 149-251.

鈴木孝夫 (1973), 『言葉と文化』, 岩波新書.

鈴木孝夫 (1982), 自称詞と対称詞の比較, 『日英語比較講座 文化と社会』5, 大修館書店, 17-59.

小学館・韓国金星出版社共同編 (1993), 『朝鮮語辞典』, 小学館, 東京.

田中春美・田中幸子編 (1998), 『社会言語学への招待—社会・文化・コミュニケーション』, ミネルヴァ書房.

植田晃次 (1996), 中国朝鮮語規範化文献に見る規範制定者の「規範語」観—文化大革命終結以降—, 『国際開発研究フォーラム』6, 271-282.

王翰碩 (1990), 북한의 친족용어 (北韓の親族用語), 『国語学』20, 168-202.

王志芳 (1993), 试析近年来汉语称谓词变化的文化内涵, 『アルテスリベラレス』53, 35-36.

延辺社会科学院言語研究所編 (1995), 『조선말사전 (朝鮮語辞典)』第1版, 延辺人民出版社.

安田吉実 (1970), 韓国語の“당신 (当身)”考, 『天理大学学报』66, 19-36.

Abstract**On *Tongmu* From the Perspective of Social Linguistics
—With A Focus on Its Uses in the Literary Works by Korean Chinese Writers —**

Lianhua Sun

Graduate School for International Development and Cooperation,
Hiroshima University, Higashi-Hiroshima, 739-8529, Japan

This paper takes *Tongmu* appearing in literature works as an example, through analyzing the use and evolution of it and its relevance with social relationships in Korean Chinese language and life, it explores one aspect of the address term *Tongmu*.

The results of this investigation are:

First, as an address term, *Tongmu* was used only among communists before the establishment of the People's Republic of China. After that, it gradually took root in Korean Chinese society. Not only Communist Party members, but also people of different genders, ages and status, utilized it. It became a very popular address term in society as a whole and was used steadily until the 1980s. Moreover, its range of use enlarged and even couples began to it. However, after diplomatic relations between China and Korea were built in 1992, the frequency of its use began to decrease.

Secondly, the author finds a parallel nature between the transition of *Tongmu* and the changes in society and thought. *Tongmu*, originally an address term particularly for revolutionary comrades, developed as a common term of social address, became popular in Korean Chinese society under the socialist system. The use of it even spread to couples. The common feature of its uses is showing equality and identical relationship. *Tongmu* was broadly used in Korean Chinese society when identical relationship was emphasized under the egalitarian ideology of socialism. However, after the Cultural Revolution (1966-1976), there have been changes in people's values, when the whole society's pursuit for economy is prior to the pursuit for political value of equality. In particular, nowadays, the focus of values has moved from politics and collective to economy and individual. As a result, *Tongmu*, which used to be a symbol of equality and to be widely utilized in society, is being used less and less. It is clearly seen that the use of *Tongmu* parallels the change in society in accordance with the changes in people's thought.